

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671300428		
法人名	有限会社 慈恵会		
事業所名	グループホーム 花乃苑		
所在地	徳島県阿南市羽ノ浦町中庄大久保78		
自己評価作成日	令和4年10月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和4年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲を田園に囲まれたのどかな地域にあり、建物内はふるさと産材の杉を使用した自然木のぬくもりが感じられる空間となっています。全居室に南向きの窓を配置し、明るい日差しが差し込みます。苑庭や玄関先、テラス等には四季折々の花や植木を配置し、ご利用者様や訪問される方々にも季節を感じ楽しんでいただいております。コロナ感染対策のため、以前よりも地域住民との交流が少なくなっていますが、苑庭でのお花見会や野菜の栽培・収穫、施設周辺を散歩したり、ウッドデッキでのお茶会や体操等、ご利用者様が閉塞感を感じないように支援しています。また、花乃苑ではご利用者様に生きがいや喜びのある生活を送っていただけるよう、各ご利用者様の意向や生活歴等を重視した上で、自立支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周囲を田畑に囲まれ、自然を感じつつ生活することができる環境に位置している。玄関やウッドデッキに季節の花を植えたり、敷地内に菜園を設けたりして、季節感を大切にしている。事業所理念として、“ゆったり、楽しく、一緒に今のあなたを大切に”を掲げ、利用者一人ひとりの思いや意向等を尊重した支援に取り組んでいる。また、食事は、三食、手作りのものを提供している。菜園で採れた野菜や地元の食材を活用し、利用者が食事を楽しむことができるよう工夫している。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、外出や外泊などが難しいなかでも、敷地内でのお花見や野菜の収穫、少人数でのドライブに出かけるなど、安全面に配慮しつつ、利用者が楽しく生活することができるよう工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひまわり 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りの際に、職員で理念を唱和している。理念が共有できているか、また、理念を意識しながらの支援が行えているか等、折に触れ確認している。	事業所では、開設当初から大切にしている理念を掲げている。毎日、申し送りの際に理念を唱和したり、玄関等の共用空間に掲示したりして、職員間での共有化を図っている。また、新人職員にも研修で伝えるなどして理念を共有し、日ごろの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ流行以前は、ボランティアの慰問や地域行事、集会への参加、サツマイモ栽培等を通じて、地域や他事業所の方々との交流が図れていた。現在は、交流が少なくなっているが、近隣住民とは挨拶を交わし関係性を継続している。	事業所では、地域行事への参加や近隣幼稚園との交流など、日常的に地域との交流を図っている。感染症(コロナ等)の流行下においては、関係者と電話等で連絡を取り、交流の継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	阿南市徘徊高齢者等SOSネットワーク事業に登録し、地域で行方不明者が発生した場合の捜索に協力できる体制を整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染対策のため、外部の方の出席を再開できておらず、花乃苑グループ3施設から管理者や職員が出席し、事業所の取り組みや改善点等を話し合い、その内容は職員間でも検討し、今後のサービス向上に役立っている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行下においては、近隣のグループホーム等と利用者や事業所の状況等について協議・検討している。会議の議事録を、各委員に送付したり、持参したりして、意見等を聞き取り、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1回は報告書等の提出のため、市の担当窓口を訪問している。また、制度改正時の不明な点を相談したり、運営についての助言をいただいている。	管理者は、毎月、市の担当窓口を訪問している。訪問時には、事業所の状況等を報告し、助言を得ている。また、地域包括支援センターが開催する事例検討会や意見交換会に参加するなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に職場内でも研修を行い、身体拘束の内容やその弊害を理解し、日々のケアの中で身体拘束に繋がるような不適切なケアの有無等を確認するようにしている。2ヶ月毎に運営推進会議において、検討委員会を開催している。	事業所では、年1回、身体拘束に関する研修会を開催し、拘束の内容や弊害等について、職員間での共有化を図っている。随時、不適切なケアについて職員間で協議・検討し、拘束をしないケアに努めている。現在、安全面に配慮して、やむを得ず玄関を施錠している。	今後も、玄関の施錠に関して、職員間で協議を続けることが望まれる。利用者の安全面に配慮しつつ、施錠の時間について検討を重ね、自由な暮らしの支援に向けた取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に職場内でも研修を行い、高齢者虐待について理解を深め、虐待に該当する言動等がないか、職員同士が確認し合い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひまわり 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に学びの機会を持ち、権利擁護を必要とされるご利用者様やご家族様が制度を利用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書類や利用料等、内容をわかりやすく説明し、理解を得た上で手続きを進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様からは日頃の何気ない会話の中からも意見や要望を確認している。ご家族様とは来苑時や電話等の機会に確認を行っている。頂いた意見や要望は職員間で話し合い、運営に反映している。	事業所では、日ごろの支援のなかで、利用者の意見や要望等を聞き取っている。家族等には、来訪時や電話連絡時に、意見等を出しやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見等は、職員間で共有化を図り、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や年2回の個別面談の他、随時、意見や提案を聞き、出された内容は代表者や管理者を含めた職員間で話し合い、運営に反映している。	管理者は、毎月の職員会議等の機会に、職員からの意見や提案等を聞き取っている。年2回、個別面談も行っている。出された意見等について、運営面に反映し、職員が働きやすい職場環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度を導入し、残業ゼロ、資格取得サポート、有給休暇取得をすすめる等、働きやすく、やりがいがあるような職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内での研修の他、経験に応じ外部の研修にも参加できる機会を確保している。コロナ禍においては、リモートでの受講も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人が運営する他施設、運営推進会議や地域連絡会、研修等を通じて、他事業所の職員との交流や情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひまわり 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して頂けるような接し方、言葉遣い、環境づくり等を心掛け、ご本人の思いを理解し受け止め、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が抱える不安や困りごと、要望等を丁寧に関わり、事業所としてどのような対応が可能かを話し合うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様・ご家族様の意向や置かれている状況等を確認し、できるだけ柔軟に対応している。必要な場合は他事業者とも連携している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様が抱える思いや個性を尊重し、日々の暮らしの中で家族のように共に支え合えるような関係づくりを目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様を共に支えるという思いで、日常の出来事や心身の状況等についての情報を共有し、ご利用者様とご家族様が良好な関係を継続できるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策中の現在は、窓越しの面会や手紙のやりとり、電話での会話等の支援を行っている。コロナ感染の心配がなくなり次第、以前の様に親類や知人の方が気軽に訪問し、交流が図れるよう支援したい。	事業所では、馴染みの人や場所との関係継続に向けて、支援に取り組んでいる。感染症の流行下においては、安全面に配慮しつつ面会ができるよう工夫するなど、家族や知人、友人等との関係が途切れることのないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団での活動以外にも、気の合う利用者様同士で過ごせるよう支援している。また、良好な関係が築けるよう職員が調整役となり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひまわり 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時は転居先の関係者に対して、きめ細やかな情報提供を行い、環境変化から生じるダメージを最小限にできるよう努める。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様に確認する際、質問方法を工夫したり、表情からも心情をくみ取り、思いや意向の把握に努めている。把握した情報は個人記録に記載し、職員間で共有できるようにしている。	職員は、日ごろの利用者とのかかわりのなかで、思いや意向等の把握に努めている。意思の表出が困難な方については、本人の表情を確認したり、家族等に生活歴を確認したりして、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様やご家族様、関係者より情報を収集し、日頃の生活の様子や会話の中からも“その人らしさ”の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録の確認や職員間で情報交換を行い、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様・ご家族様からの要望や現状等を把握した上で、より良く暮らすための支援内容を職員や関係者も含め話し合い、介護計画を作成している。毎月のモニタリングも行い、適正なサービスの提供が行えているか確認している。	事業所では、利用者や家族等の意向、専門職の助言等を踏まえた介護計画を作成している。毎月、モニタリングを行い、計画達成状況を確認している。また、随時、本人の心身状況の変化に応じて見直すなど、現状に即した計画作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	血圧、体温、食事量等の身体的状況や日常生活の様子等も個別に記録している。職員は記録を確認し、情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変な対応を心掛けている。必要があれば他事業者とも連携し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひまわり 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容院の訪問で散髪を実施し、かかりつけ医以外にも、必要に応じて病院受診ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関からの往診が週1回あり、必要に応じて専門科受診も支援している。専門科受診の際は、ご家族様のご協力をいただくことがある。	事業所では、利用者や家族等の希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門医等を受診する際は、家族等の協力を得ている。定期的に、協力医療機関の往診を受けるとともに、緊急時や夜間等、24時間対応可能な体制を整備し、利用者の適切な医療受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師による定期的な訪問があり、健康管理をしてもらっている。また、ご利用者様の体調に不安な事があれば、気軽に相談ができ連携が図れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先に情報提供を行い、入院中も心身の状態や治療経過、退院の目途等について、ご家族様や医療関係者に確認するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化した場合・終末期の指針等について説明し、その時々で事業所の対応力が変化することを理解して頂いた上で、早い段階から重度化・終末期のあり方について意向確認を行い、できる限りの支援を行う。職員研修も行っている。	事業所では、契約時の段階で、重度化や終末期の指針について、利用者や家族等に説明し、同意を得ている。利用者の心身状況の変化に応じて、本人や家族等の意向を確認し、協力医療機関等と連携・協力しつつ、支援に取り組んでいる。また、希望に応じて、看取り支援も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スムーズに的確な対応ができるよう、定期的に勉強会や訓練を行っている。緊急時の対応方法をフローチャートでわかりやすく示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、ご利用者様と一緒に火災訓練を行っている。また、災害時の避難経路の確認や、備蓄品の点検等も行っている。近隣住民や近隣施設にも災害時の協力をお願いしている。	年2回、消防署や地域等の協力を得つつ、日中・夜間を想定した避難訓練を実施している。感染症の流行下においても、地域への声かけを行い、協力体制を築くよう努めている。また、備蓄品も整備・管理し、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひまわり 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳・プライバシー保護の研修を定期的に行い、個々に応じた言葉かけや対応について、随時、職員間で話し合い実践している。	事業所では、年1回、プライバシー等に関する研修会を開催し、職員間での意識の共有化を図っている。職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重した支援に努めている。日ごろの支援のなかで、プライバシーを損ねることのないよう、声かけ等に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の希望を最優先とし、言葉に表出する事が難しい場合は表情や行動からも気持ちががくみ取れるような支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、強制ではなくご本人の希望を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師の訪問により、ご本人の希望に沿った髪型や髪染め等の支援、また、好みの衣類が着用できるよう確認しながら支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は3食とも全て手作りで、旬の国産食材や入居者様が好まれるメニューを取り入れ、食事が楽しいものになるよう心がけている。また、下ごしらえの段階から利用者様と一緒にやっている。	食事は、手作りのものを提供している。日ごろの支援のなかで、利用者の好みを聞き取り、献立に反映している。菜園で採れた野菜や季節の食材を活用し、食事を楽しむことができるよう工夫している。また、野菜の皮むきや収穫等を利用者と一緒にやり、生きがいにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好みや食事形態等に対応し、バランスよく十分な栄養が摂取できるよう支援している。また、食事・水分摂取量や体重の変動を確認し体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医院より口腔ケアについての助言や指導を頂き、毎食後、個別に口腔ケアの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひまわり 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに応じて、個別にトイレの声かけや誘導を行っている。可能な限り、トイレでの排泄が行えるよう支援している。	事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。把握した情報をもとに、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。夜間もできる限りトイレ誘導を行っている。また、トイレの入口に、わかりやすい目印をつけるなどの工夫も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に便秘改善効果のあるものを取り入れ、十分な水分摂取や適度な運動をすすめている。薬剤が必要な場合は主治医と相談の上、便秘の状態に応じてできるだけ身体への負担が少ないものを処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者様の希望を重視し、無理強いはいしませんが清潔が保持できるよう、最低でも週2回は入浴の支援を行っている。個別にゆっくり安心して入浴できるよう配慮し、介助はできる限り同性職員が行っている。	事業所では、週2回は入浴することができるよう支援している。利用者の希望に応じて、毎日でも入浴できる体制を整備している。入浴拒否がある場合は、日程や職員を変更するなど、本人の思いに配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムが整い夜間良眠ができるよう、日中の活動を勧めているが、各々、自由に休息できる時間も確保している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様に薬剤の効能や副作用についての説明書をわかりやすくファイリング。誤薬や飲み忘れ等が発生しないよう、服薬確認表にて確実に服薬支援が行えるよう取り組んでいる。また、協力調剤薬局と協働で体調確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様一人ひとりに合った役割や趣味活動等の楽しみも持ち、張り合いのある暮らしができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の現在は感染対策を取りながら、季節の花見やドライブ、苑庭や近所と一緒に散歩し季節を感じ、気分転換が図れるよう支援している。	事業所では、日ごろから、近隣を散歩したり、家庭菜園を行ったりして、日常的な外出支援に取り組んでいる。感染症の流行下においても、安全面に配慮しつつ、少人数でのドライブを行うなど、戸外に出かけることができるよう工夫している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひまわり 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が困難な場合は、ご家族と相談の上で預かり金額を取り決め、個別の出納帳にて管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの申し出がなくても、職員が必要と判断した際は、声かけし支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に移動ができるようスペースを確保し、共用空間には月毎の壁面飾りや装飾で季節感を取り入れ、居心地の良い空間づくりを心がけている。	共用空間は、利用者が居心地よく過ごすことができるよう、明るさや室温等を調整している。壁面には、利用者と一緒に制作した作品を飾るなど、季節感に配慮している。また、定期的に換気や消毒を行うなど、感染症対策にも取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	机や座席は気の合うご利用者様同士で過ごせるようレイアウトしている。また、独りになれる空間も確保し、リラックスして過ごして頂けるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた馴染みある家具や日用品、家族との写真等を持ち込むことができ、安心し、落ち着いて過ごして頂けるよう配慮している。	居室には、利用者の馴染みの家具や家電等を持ち込んでもらっている。利用者一人ひとりの心身状況にあわせて、配置等を工夫し、居心地よく過ごすことができるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて手すりを増設したり、居室やトイレ、浴室には分かりやすく目印を設置している。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			さくら 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りの際に、職員で理念を唱和している。理念が共有できているか、また、理念を意識しながらの支援が行えているか等、折に触れ確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ流行以前は、ボランティアの慰問や地域行事、集会への参加、サツマイモ栽培等を通じて、地域や他事業所の方々との交流が図れていた。現在は、交流が少なくなっているが、近隣住民とは挨拶を交わし関係性を継続している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	阿南市徘徊高齢者等SOSネットワーク事業に登録し、地域で行方不明者が発生した場合の捜索に協力できる体制を整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染対策のため、外部の方の出席を再開できておらず、花乃苑グループ3施設から管理者や職員が出席し、事業所の取り組みや改善点等を話し合い、その内容は職員間でも検討し、今後のサービス向上に役立っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1回は報告書等の提出のため、市の担当窓口を訪問している。また、制度改正時の不明な点を相談したり、運営についての助言をいただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に職場内でも研修を行い、身体拘束の内容やその弊害を理解し、日々のケアの中で身体拘束に繋がるような不適切なケアの有無等を確認するようにしている。2ヶ月毎に運営推進会議において、検討委員会を開催している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に職場内でも研修を行い、高齢者虐待について理解を深め、虐待に該当する言動等がないか、職員同士が確認し合い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			さくら 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に学びの機会を持ち、権利擁護を必要とされるご利用者様やご家族様が制度を利用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書類や利用料等、内容をわかりやすく説明し、理解を得た上で手続きを進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様からは日頃の何気ない会話の中から意見や要望を確認している。ご家族様とは来苑時や電話等の機会に確認を行っている。頂いた意見や要望は職員間で話し合い、運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や年2回の個別面談の他、随時、意見や提案を聞き、出された内容は代表者や管理者を含めた職員間で話し合い、運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度を導入し、残業ゼロ、資格取得サポート、有給休暇取得をすすめる等、働きやすく、やりがいがあるような職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内での研修の他、経験に応じ外部の研修にも参加できる機会を確保している。コロナ禍においては、リモートでの受講も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人が運営する他施設、運営推進会議や地域連絡会、研修等を通じて、他事業所の職員との交流や情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			さくら 実践状況	実践状況	実践状況
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して頂けるような接し方、言葉遣い、環境づくり等を心掛け、ご本人の思いを理解し受け止め、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が抱える不安や困りごと、要望等を丁寧に伺い、事業所としてどのような対応が可能かを話し合うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様・ご家族様の意向や置かれている状況等を確認し、できるだけ柔軟に対応している。必要な場合は他事業者とも連携している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様が抱える思いや個性を尊重し、日々の暮らしの中で家族のように共に支え合えるような関係づくりを目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様を共に支えるという思いで、日常の出来事や心身の状況等についての情報を共有し、ご利用者様とご家族様が良好な関係を継続できるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策中の現在は、窓越しの面会や手紙のやりとり、電話での会話等の支援を行っている。コロナ感染の心配がなくなり次第、以前の様に親類や知人の方が気軽に訪問し、交流が図れるよう支援したい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団での活動以外にも、気の合う利用者様同士で過ごせるよう支援している。また、良好な関係が築けるよう職員が調整役となり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			さくら 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時は転居先の関係者に対して、きめ細やかな情報提供を行い、環境変化から生じるダメージを最小限にできるよう努める。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様に確認する際、質問方法を工夫したり、表情からも心情をくみ取り、思いや意向の把握に努めている。把握した情報は個人記録に記載し、職員間で共有できるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様やご家族様、関係者より情報を収集し、日頃の生活の様子や会話の中からも“その人らしさ”の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録の確認や職員間で情報交換を行い、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様・ご家族様からの要望や現状等を把握した上で、より良く暮らすための支援内容を職員や関係者も含め話し合い、介護計画を作成している。毎月のモニタリングも行い、適正なサービスの提供が行えているか確認している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	血圧、体温、食事量等の身体的状況や日常生活の様子等も個別に記録している。職員は記録を確認し、情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変な対応を心掛けている。必要があれば他事業者とも連携し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			さくら 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容院の訪問で散髪を実施し、かかりつけ医以外にも、必要に応じて病院受診ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関からの往診が週1回あり、必要に応じて専門科受診も支援している。専門科受診の際は、ご家族様のご協力をいただくことがある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師による定期的な訪問があり、健康管理をしてもらっている。また、ご利用者様の体調に不安な事があれば、気軽に相談ができ連携が図れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先に情報提供を行い、入院中も心身の状態や治療経過、退院の目途等について、ご家族様や医療関係者に確認するようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化した場合・終末期の指針等について説明し、その時々で事業所の対応力が変化することを理解して頂いた上で、早い段階から重度化・終末期のあり方について意向確認を行い、できる限りの支援を行う。職員研修も行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スムーズに的確な対応ができるよう、定期的に勉強会や訓練を行っている。緊急時の対応方法をフローチャートでわかりやすく示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、ご利用者様と一緒に火災訓練を行っている。また、災害時の避難経路の確認や、備蓄品の点検等も行っている。近隣住民や近隣施設にも災害時の協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			さくら 実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳・プライバシー保護の研修を定期的に行い、個々に応じた言葉かけや対応について、随時、職員間で話し合い実践している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の希望を最優先とし、言葉に表出する事が難しい場合は表情や行動からも気持ちがくみ取れるような支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、強制ではなくご本人の希望を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師の訪問により、ご本人の希望に沿った髪型や髪染め等の支援、また、好みの衣類が着用できるよう確認しながら支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は3食とも全て手作りで、旬の国産食材や入居者様が好まれるメニューを取り入れ、食事が楽しいものになるよう心がけている。また、下ごしらえの段階から利用者様と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好みや食事形態等に対応し、バランスよく十分な栄養が摂取できるよう支援している。また、食事・水分摂取量や体重の変動を確認し体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医院より口腔ケアについての助言や指導を頂き、毎食後、個別に口腔ケアの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			さくら 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに応じて、個別にトイレの声かけや誘導を行っている。可能な限り、トイレでの排泄が行えるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に便秘改善効果のあるものを取り入れ、十分な水分摂取や適度な運動をすすめている。薬剤が必要な場合は主治医と相談の上、便秘の状態に応じてできるだけ身体への負担が少ないものを処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様の希望を重視し、無理強いはいしませんが清潔が保持できるよう、最低でも週2回は入浴の支援を行っている。個別にゆっくり安心して入浴できるよう配慮し、介助はできる限り同性職員が行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムが整い夜間良眠ができるよう、日中の活動を勧めているが、各々、自由に休息できる時間も確保している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様別に薬剤の効能や副作用についての説明書をわかりやすくファイリング。誤薬や飲み忘れ等が発生しないよう、服薬確認表にて確実に服薬支援が行えるよう取り組んでいる。また、協力調剤薬局と協働で体調確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様一人ひとりに合った役割や趣味活動等の楽しみも持ち、張り合いのある暮らしができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の現在は感染対策を取りながら、季節の花見やドライブ、苑庭や近所と一緒に散歩し季節を感じ、気分転換が図れるよう支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			さくら 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が困難な場合は、ご家族と相談の上で預かり金額を取り決め、個別の出納帳にて管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの申し出がなくても、職員が必要と判断した際は、声かけし支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に移動ができるようスペースを確保し、共用空間には月毎の壁面飾りや装飾で季節感を取り入れ、居心地の良い空間づくりを心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	机や座席は気の合うご利用者様同士で過ごせるようレイアウトしている。また、独りになれる空間も確保し、リラックスして過ごして頂けるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた馴染みある家具や日用品、家族との写真等を持ち込むことができ、安心し、落ち着いて過ごして頂けるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて手すりを増設したり、居室やトイレ、浴室には分かりやすく目印を設置している。		